

ひむか神話の郷 まち歩きMAP

1 馬ヶ背

日豊海岸国定公園唯一の絶景ポイント。ガラス張り展望台「スクルツチャ」から望む国内最大級の柱状節理の断崖絶壁は圧巻です。また、孤を描く水平線を眺めれば、「地球のまるき」を実感できます。

2 細島灯台

海原と空の青さの中に、ひととき輝く白い灯台。2017(平成29)年に日本ロマンチスト協会により「恋する灯台」に認定されている。灯台の広場からは馬ヶ背が見下ろすことができ、眺めがよいスポット。

3 願いが叶うクルスの海

柱状節理が東西南北に裂け、巨大な十字を描いています。地元では古くから「十字字」と呼ばれ、ここで祈りをささげると願いが叶うといわれているスピリチュアルスポットです。

4 米の山展望台

海拔192m。「米の山」の頂上付近に建つ六角形の形をした展望台です。屋上からは日向岬や市街地はもちろん、天気の良い日には水平線の彼方に高知県を望むことができます。

ホテル・旅館名	電話番号(0982)	客室	ホテル・旅館名	電話番号(0982)	客室
ホテルベルフォート日向	52-0001	72室	ゲストハウス HINATA	52-4446	4棟
ホテルメリッサ日向	55-8181	49室	Guest house Pumping Surf	95-7311	3室
ホテルミエール日向	55-1222	62室	Guest House NAMIMACHI	090-4487-5109	3室
日向第一ホテル	52-8151	100室	Guest house & Beach café fueyo	60-1958	9室
HOTEL AZ宮崎北日向店	54-1800	91室	ゲストハウス たまのや	090-4483-3653	3室
HOTEL AZ宮崎南日向店	50-3301	91室	ゲストハウス GOOFY	57-2210	9室
Pleasant日向	57-2727	24室	GUEST HOUSE OCEAN BLUE	WEB受付のみ	3室(1棟)
民宿 富士	52-3758	4室	Le Lodge 美々津	080-3972-6968	2棟
民宿 山の茶屋	53-8881	15室	日向サーフキャンプ	080-6459-7547	18棟
旅館 望洋館	57-1002	8室	ソレイユホーム日向	070-1970-8805	2棟
民宿 久恵	57-1855	7室	グランピングリゾートNew Day	60-4255	2棟
民宿 金ヶ浜	57-1550	11室	日向美々津の宿	080-3556-9517	1棟
民宿 みやこ家	58-0164	16室	SWELL Guesthouse	66-6120	13室
民宿 磯	58-0313	6室	OCEAN SIDE okuragahama beach garden	56-2609	4棟
民宿 船待	58-0217	11室	Hyuga Village	60-6066	5棟
あゆの是則	58-0602	8室	CAMP FIELD & DOG RUN SUZU	080-5218-8550	1組
民宿 いすみ	58-1300	12室	日向神話ゲストハウスVIVID	070-3768-9067	4名まで
			ロコナラクダ	090-9572-7424	8棟



5 大御神社

日向のお伊勢さまとして知られる人気のパワースポットです。境内には国歌「君が代」に歌われている国内最大級の「いざざれ石」群があるほか、龍神信仰の跡も残っています。

6 お倉ヶ浜

「日本の渚100選」に選定された日向市を代表するビーチです。一年をとおして良い波が押し寄せることから、国内屈指のサーフスポットとして多くのサーファーで賑わっています。



日向ひよっこ夏祭り

ひょうきんなお面を着けてユーモラスに踊る姿が笑いを誘うひよっこ踊りは、明治の初めに塩見永田地区に開業していた橋公行医師が、神楽をベースにした踊りを村人に伝授したものと伝えられています。古くから初午の日(2月の最初の午の日)に福荷神社に奉納されています。現在は「日向ひよっこ夏祭り」も開催され、宮崎県を代表する祭りになっています。毎年8月第1土曜日にはおよそ2,000人の踊り手が全国各地から集まります。

日向市駅

日向市を流れる耳川流域のスギ材をふんだんに使い、独特の建築様式を取り入れた駅舎が特徴です。鉄道に開催する国際的なデザインコンテストのプルネル賞で最優秀賞を受賞。電車の接近モレタイとして「ひよっこ踊り」のお隣りが流れます。また駅西口の広場では各種イベントが開催されます。

宮崎の神話 (日本誕生~神武東征)

今から1300年以上前の西暦712年、天武天皇の命を受けた太安万侶らにより編さんされ、現存する我が国最古の歴史書と言われている「古事記」。その8年後に編さんされ、同じく最古の正史とされる「日本書紀」。これらの書物に描かれているのは、天皇の祖先である神々が地上に降り立つ前、そして地上に降り立った後に繰り広げられた、その昔です。

神々といえども、そこに登場するのは必ずしも崇高な心の持ち主というわけではありません。時に怒り、時に嫉妬し、時に笑い合うという、まさに悲喜こもごも、生々しい人間の息遣いが聴こえてきそうな物語です。

そんな神話の世界で、多くの物語の舞台となっているのが宮崎県です。変貌したイザナミノミコトから逃れて、よもつ黄泉国からお戻りになったイザナミノミコトが禊をされた阿波岐ヶ原(あわぎがはら)、ニギノミコトが神々の暮らす高天原(たかまがはら)から地上に降り立たれた(天孫降臨)高千穂、スサノノミコトに腹を立てたアマテラスオオミカミがお隠れになった天岩戸(あまのいわと)、などなど。この他にも、神話のエピソードの舞台となったとされる場所が数多く存在します。

日向市内にも神話に所縁の場所や伝承がいくつも残っており、中でも美々津地区には、後に神武天皇(初代天皇)に即位するカムヤマトイワレビコノミコトが東征のためにお舟出したという伝説(お舟出伝説)が受け継がれています。果たしてそれが事実かどうかはさておき、お舟出が早まったために急いでこしらえた「お舟出だんご」や「立縫」という地名、「おきよ祭り」など、およそ2700年も前のエピソードが尚、地域の風景を彩り、それを次代へと継承してこうとする人々の姿は、今も変わることがありません。

◆神武天皇【カムヤマトイワレビコノミコト】
~誕生からご東征へ~

カムヤマトイワレビコノミコト(後の神武天皇)は、日本国土を形作ったといわれるイザナキノミコトとイザナミノミコトの子孫にあたり、生まれながらにして明達で、強い意志を持っていました。15歳で皇太子となり、アヒラツヒメを妻を迎え、現在の宮崎市の皇宮屋(こぐや)で国を治めておりました。45歳のとき、兄弟や子供から「ここから東の方に良い土地があり、これから国を治めていくには、そこに行かれるとよろしいでしょう」と言われ、ご東征を決議されました。それからカムヤマトイワレビコノミコトは、自ら大軍を率いて皇宮屋をご出発になり、陸路北へ進まれ、美々津の地からお舟出されたといわれています。

ACCESS

福岡市: (九州中央自動車道経由) 約3.5時間
熊本市: 約3時間 大分市: 約2時間
鹿児島市: 約3時間 宮崎市: 約1時間

主要駅・空港から日向岬までの所要時間

宮崎空港	徒歩 約1分	宮崎空港駅	日向市駅
JR大分駅	徒歩 約1分	日向市駅	日向市駅
JR小倉駅	徒歩 約1分	日向市駅	日向市駅

お得な観光タクシーがご利用いただけます。
※詳しくは、日向市観光協会へお問い合わせください。

日向市経済戦略部 ふるさとプロモーション課
日向市本町10-5 TEL.0982-52-2111

一般社団法人 日向市観光協会
日向市鶴町1番地 TEL.0982-55-0235 FAX.55-1739
www.hyuga.or.jp

細島港福祉センター	52-6832	7室
日向サンパークオートキャンプ場	58-0636	6棟
牧公園	69-7720	10棟



1 立磐神社

神武天皇と住吉三神をお祀りした神社です。社は柱状節理の岩場の上に建て、境内には神武天皇が腰掛けたという「御腰掛岩」もお祀りされています。

2 日本海軍発祥之地碑

神武天皇が水軍を率いて出した美々津は、「日本海軍発祥の地」といわれています。昭和17年に建立された日本海軍発祥の地の碑は波頭を模したモニュメントで、耳川河口のシンボルとなっています。

3 美々津軒

明治初期の商家「旧矢野家」を修復復元した伝統的建造物です。無料で開放されており、当時の生活を垣間見ることができます。

4 美々津まちなみセンター

伝建地区の入口付近に建つ「旧藤屋」住宅を修復復元した伝統的建造物です。名物の「お舟出だんご」はこちらで購入できます。

5 高札場

江戸時代に、幕府が藩が民衆に直接伝達する手段として用いられた立札を再現しています。

6 日向市歴史民俗資料館

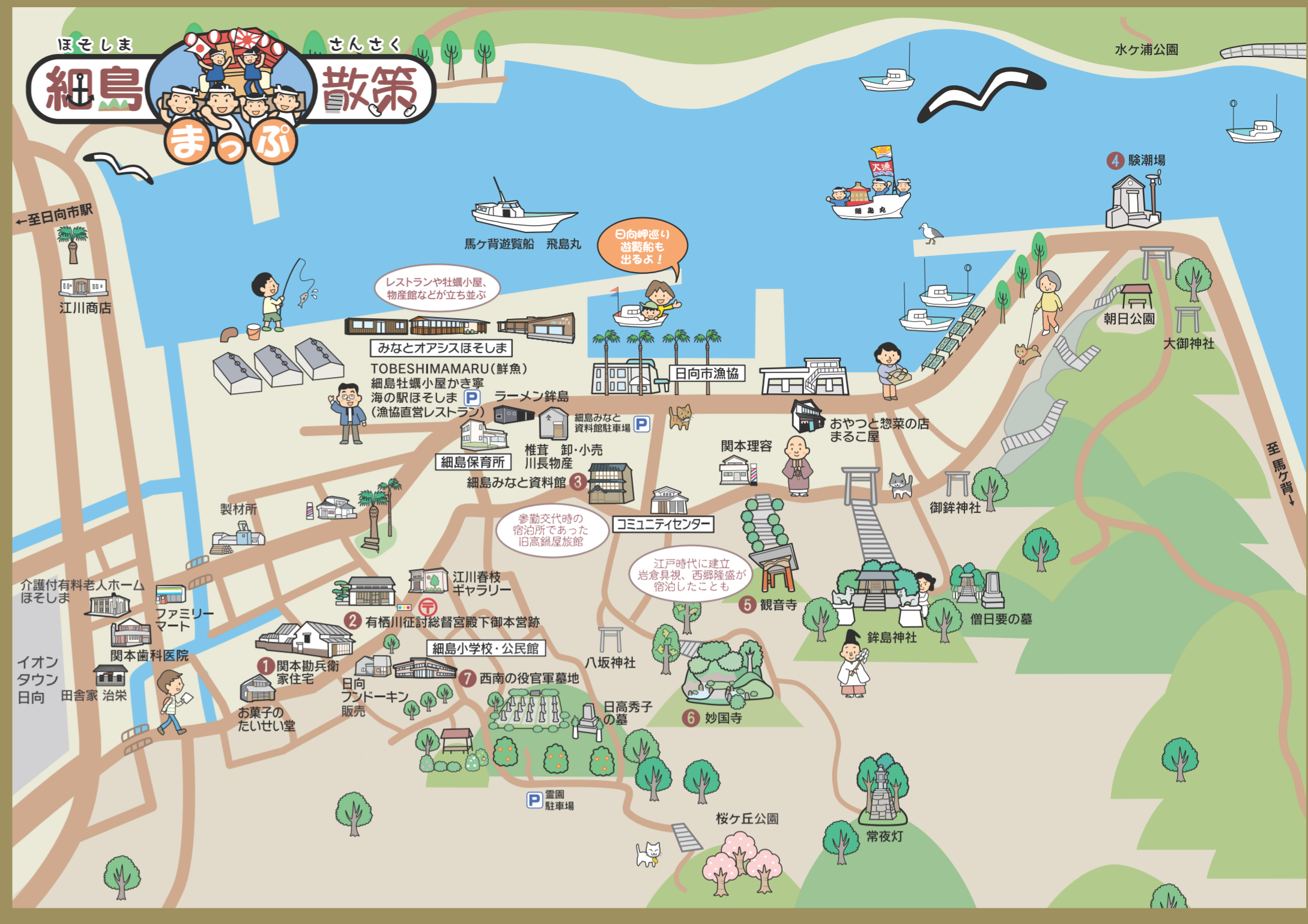
江戸末期(1855年)に建てられた廻船問屋「河内屋」を復元した建物で、豪商として繁栄を極めた当時の様子がかがえます。現在は日向市歴史民俗資料館として一般に開放されています。

7 旧美々津郵便局舎

明治初期に郵便局舎として建築された建物です。町並に似合う丸いポストが、今も当時の面影を残します。

8 セツパエーツ神

美々津町並保存地区の沖合に浮かぶ岩礁で、神武天皇が東征の際にこの岩礁の間を抜けて旅立ったといわれています。その後神武天皇は美々津に戻ることはなかったため、今でも地元漁師たちはこの間を通り抜けて漁に出ることはありません。



1 関本勘兵衛家住宅

関本勘兵衛家は、「古屋」の屋号を持つ細島屈指の商家で、長州(山口県)下関から移住して来られ、代々「勘兵衛」を名乗り、現在に至ります。細島東部の八坂区で商いをしていたが、明治12(1879)年4月この地に移り、明治末期には味噌、醤油の商いを中心に水道管や水筒等の販売も手掛けていました。

2 有栖川征討総督官邸下御本営跡

「摂津屋」は、宮崎県内に現存する木造家屋としては最も古く、宝暦2(1752)年に建てられました。西南戦争の際に官軍の征討本営がここに置かれ、旧四親王家の一つである有栖川宮徳仁親王が総督として指揮を執りました。重厚な厨子二階・平入の建物で、親王の揮毫による「瀟湘古存」の扁額や要用の高下駄なども保存されており、残念ながら一般開放はされていません。

3 細島みなと資料館

「旧高鍋屋旅館及び付属屋」市指定文化財

「旧高鍋屋」は、江戸時代に高鍋藩主の参勤交代のお宿となっていました。大正時代に新築され木造3階建て旅館として昭和57年まで営業を続けました。現在は、日向市細島みなと資料館として一般公開されています。

4 験潮場

国土地理院が設置する細島験潮場は、明治26年(1893年)1月に計測を開始しました。現存する現役の験潮場としては最も古く、平成26年には「土木学会選奨土木遺産」に選定。平成30年には国の登録有形文化財に登録されました。

5 観音寺

応永5(1398)年に現地に真言宗の寺が開山。延宝6(1678)年に曹洞宗に改宗。寺名も慈眼山観音寺と改められました。山門・鐘撞堂は天保年間(1830)の建築です。明治初期には西郷隆盛や岩倉具視、山縣有朋らが泊まり、会談を行ったと伝えられています。

6 妙国寺

日蓮宗の名刹妙国寺は、日叡上人が室町幕府開創期に開山したと伝えられ、池泉式の庭園とその周辺が国指定名勝となっています。自然の岩石、木々を背景とし、築山が三界を、中島は彼岸を現し、仏法の具現化とも伝えられています。

7 西南の役官軍墓地

西南戦争の折、県内各地で戦死した官軍兵士の墓で細島の港を見渡せる小高い丘に佇んでいます。追田鉄五郎少佐以下319名の兵士・将校・警察官等が葬られ、市指定史跡となっています。

8 八坂神社

江戸時代に建立地倉具視、西郷隆盛が宿泊したことも

宮崎の神話 (美々津編)

◆神武天皇～美々津からのご東征～

現在の宮崎市を発ち、陸路北へ進んだカムヤマトイワレビコノミコト(後の神武天皇)一行は美々津へ辿り着きます。美々津は、波の荒い日向灘に面していますが、耳川の河口が作る入り江は天然の港となっており、周辺には舟の材料となる木がふんだんにあったことから、お舟出の地として選ばれました。イワレビコノミコトは出航の日を決めておりましたが、風向きが変わったことから急遽日程を変更しました。その際に大急ぎで団子を作るため、材料を

全て一緒について作ったのが「お舟出だんご」です。現在でも美々津の名物となっています。また、出港が急に決まったこともあり、一行の旅の衣服の準備もままならなかったため、立ったまま衣を縫われたことから、「立縫(たちぬい)」という地名が残っています。

後の神武天皇が軍を従えて初めて大和(現在の奈良県)に向けて出港したことから、日本海軍の発祥であるとも言われ、立磐神社のそばには、日本海軍発祥の地を表す石碑が建立されています。

旧暦 8月1日 おきよ祭り

毎年旧暦の「八朔」(8月1日)の夜に子ども達が短冊飾りのついた笹を手に町の家々の戸を「起きよ、起きよ」と叩いて回る祭り。ご東征の際に、急に日程が変更になったため、町の人を「起きよ、起きよ」と声を掛けて回り、出発の準備をしたことがこのお祭りの所以です。

11月 立磐神社例大祭

海上の守り神である住吉三神を祀る立磐神社の航海の安全・豊漁を祈願する祭りです。御みこし担ぎや郷土芸能「權伝馬踊り」の奉納など、多くの人でにぎわいます。

宮崎の神話 (細島編)

◆御銚神社

イワレビコノミコトは、途中立ち寄った島で、当時のその島の漁民を悩ませていた大鯨を退治し、島に銚を立てました。以後、住民は銚を建て、その銚を奉りました。その島は「細島(ほそしま)」と呼ばれるようになり、いつしか「細島(ほそしま)」へと転訛したとされています。かつて細島が独立した島であったことは学術的にも証明されており、神武東征を裏付ける貴重なエピソードかもしれません。

◆御銚ヶ浦の「ヨケ」

細島の漁港から東に進み験潮場を過ぎると、海岸に沿って岩場が広がっています。地元ではこの岩場のことを「ヨケ」と呼んでいます。この「ヨケ」という呼称は、イワレビコノミコトがご東征の際にこの岩場のあたりで「よこわれた」「お休みになられた」という意味の方言)という逸話に由来するといわれています。

7月 細島みなと祭り

細島みなと祭りは1889年(明治22年)に細島が宮崎県で初めて町制を施行したことを記念して始まった祭りです。現在は毎年7月中旬に開催され、多くの来場者で賑わいます。この祭りのメインは、担ぎ上げられた重さ約2トンの太鼓台がまちを練り歩く、「太鼓台巡行」です。太鼓台には漁師町である東地区の「東若太鼓台」と、商人町である西地区の「南若太鼓台」とがあり、最終日の夜には二基の太鼓台が組み合わさってクライマックスを迎えます。一方で、大漁を祈願する八坂神社の稲荷祭でもあり、お神輿を漁船に載せ、大漁旗をはためかせて「舟渡御」も行われます。